



競争と生き残りという企業の現実

黒田インターナショナル コンサルティング

黒田 毅

グローバル市場とグローバル化は、競争と進歩において企業社会を変化させる。これらにおける企業の優位性は、ビジネスの先端性を創造するものである。これら企業基準における企業の経営は唯一未来を可能とできるのである。

競争原理は、企業社会の進歩を与える。資本主義は、資本という判断をこれらへ与えるのである。

企業において生き残りという現実、時代性への参加と独自技術と製品、サービスにおける競争への参加を求められる。

これが自由経済システムという真実なのである。これらは全ての現実の貨幣価値への転換と所有、競争における経済の拡大を形成するのである。

これらは欲望の経済であることは決して否定できない。

これらが自由と競争という西洋の正義に対して、新社会主義における社会と生活という新しい提案なのである。

デジタル化とコンピュータ社会という新しい現実、革命的变化を社会と生活へ与えるものなのである。

20世紀というアメリカの時代は、競争という現実を絶対とするのである。そのため競争から融和という、新しいルールと現実の提案は、生活の豊かさという新しいコンセンサスの提案なのである。

これらは、競争とヒエラルキーという現実に対して、共生と平等性という新しい判断を世界へ提案するものである。

これは対立というパイシスから、融和と共生というアクエリアスという時代における新しいコンセンサスの提案なのである。